

## 前回会議の主な意見及び対応

第2回にいがた交通戦略推進会議を平成29年11月30日に開催し、主な意見とその対応をまとめた。

	意見	対応方針
人の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自動車とバスが増えているとのことだが、増加した人はバスにシフトする前は何を利用していたのか。</li> <li>○高齢者のトリップが増加しているが、今後高齢者人口が増加すれば、全体のトリップも増加するのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「①バスへの転換」「②高齢者トリップの影響」について追加整理した【資料2（裏面）】</li> </ul>
交通モード	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共交通の担い手不足という課題もあるため、モード毎・地域毎の役割分担を考慮したほうがよい。</li> <li>○住民ニーズも踏まえながら、地域によってはバスではなく乗合タクシー等の導入を検討したほうがよい。</li> <li>○既存の公共交通もあるため、キーワードとして「公共交通の再構築」を加えてはどうか。</li> <li>○バリアフリーや多言語対応の観点から、ユニバーサルタクシーを推奨すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「公共交通の再構築（需要やニーズに応じた交通モードの役割分担と連携強化）」をキーワードに追加した【資料3】</li> <li>○「ユニバーサルデザイン（バリアフリー、多言語化対応）」をキーワードに追加した【資料3】</li> </ul>
拠点性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国の中で新潟の拠点性が低下していると感じており、交流人口の増加を見据えて議論していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「交流人口の拡大」をキーワードとして追加した【資料3】</li> </ul>
施策展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○財政状況が厳しい中、都市部と郊外部などで予算にメリハリをつけ、施策を検討する必要があるのではないか。</li> <li>○自転車は、いかに利用してもらうかといったソフト面を含めて施策を検討すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「メリハリを付けた施策展開」をキーワードに追加した【資料3】</li> </ul>
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民向けの生活交通と来訪者向けの交通は全く異なることから、双方の視点を持つことが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○双方の視点を持って、検討を進めていく。</li> </ul>
反意見の	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若い世代の意見を取り入れるとの記載があるが、市外からの来訪者も含め、様々な人の意見を反映できるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民ニーズについてはアンケートで反映する。来訪者については意見聴取する機会を検討していく。</li> </ul>
等 新技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後10年を見据えるのであれば、シェアサイクルやカーシェア、自動運転などの動向も含めて検討したほうがよいのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「新技術等の活用も視野」をキーワードとして追加した【資料3】</li> </ul>
整 道 備 路	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道路の管理費が増えているという記載がある一方、道路整備を進めていくという記載もあり、矛盾している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「メリハリを付けた道路整備と維持管理」をキーワードとして追加した【資料3】</li> </ul>
事 関 連 業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○立地適正化計画や新潟駅の連続立体交差事業など現在進行中の様々な計画や事業が一体的に機能すべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちづくりと連動した議論を進めていく。</li> </ul>

## 「人の動き」に関する追加整理

### ① バスへの転換について

- 平成28年度と平成23年度の交通手段分担率を比較すると、目的別では通勤、通学、業務においてバスの分担率が増加している。
- 一方で、通勤、通学、業務のいずれにおいても自転車の分担率が減少しており、主に自転車からバスへの転換が生じた可能性が考えられる。
- また、総トリップ数が増加しているため、バスを利用していなかった人が新たにバスを利用し始めた可能性も考えられる。

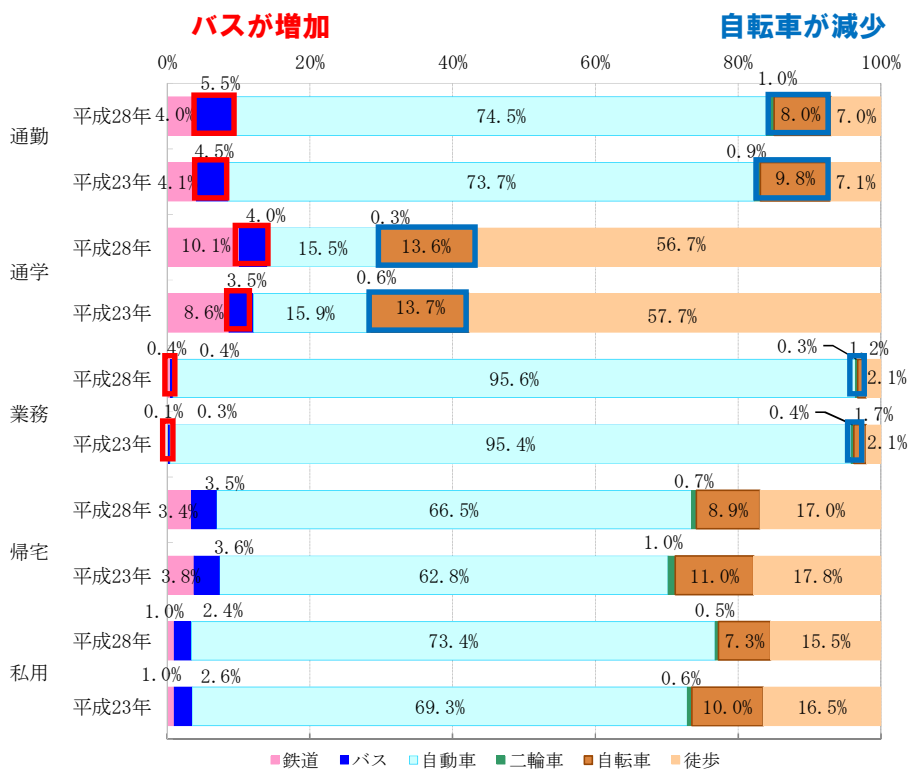


図 1 目的別交通手段分担率の推移

## ② 高齢者トリップの影響について

- 高齢者の人口割合は増加している一方、高齢者一人あたりのトリップ数も増加している。
- 人口の減少が見込まれているため、総トリップ数は減少していく見込。

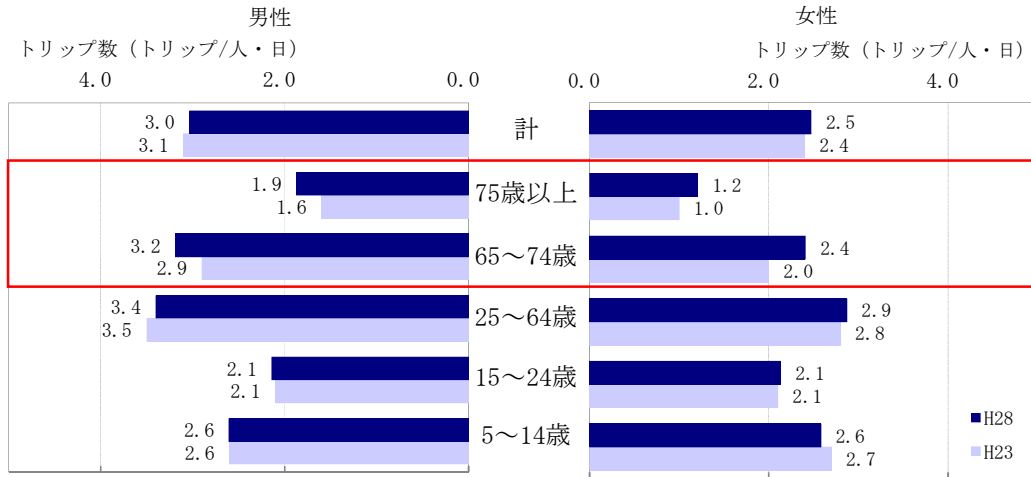


図 2 性別・年齢階層別の平均トリップ数推移

### 【参考】年齢階層別の将来人口推計

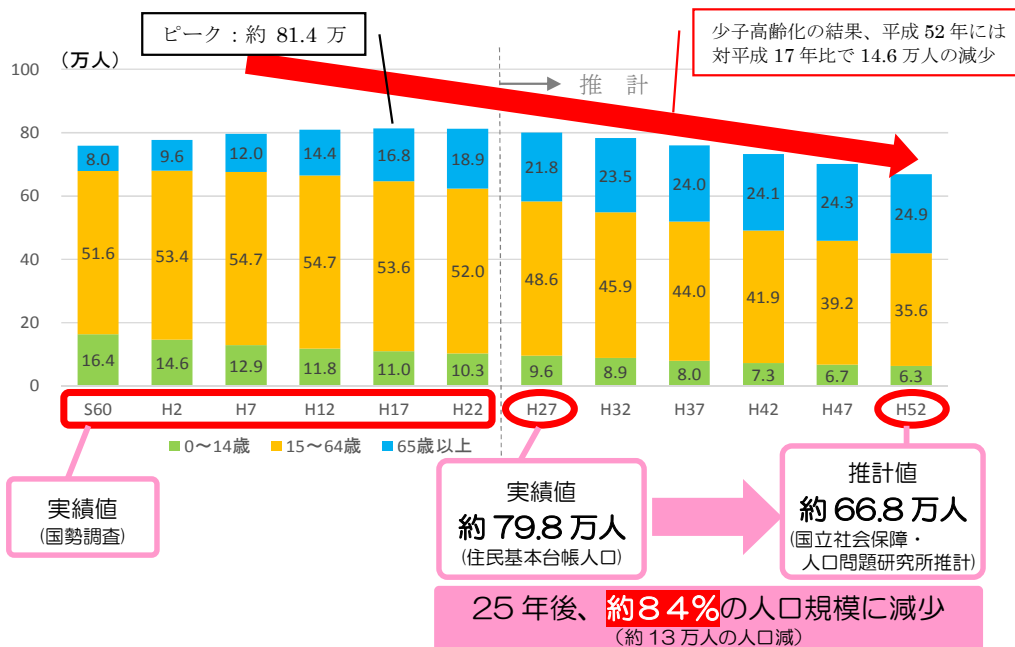


図 3 新潟市の人口と将来推計

出典：新潟市立地適正化計画（平成 29 年 3 月）